



はじめに

昨年は5月下旬に梅雨入りしたことを考えると、昨年の梅雨入りが早かったのか、今年の梅雨入りが遅いのか分かりませんが、これから天気心配が増える季節に入ります。もちろん、天候は人の力ではどうしようもないことですので受け入れるしかないのですが、子どもたちが少しでも野外活動、特に海の活動が楽しめるように、週末だけでも良い天気になることを祈るばかりです。

さて、昨今大田市では、市内の小中学校のあり方についての協議が行われており、それに併せて大田市山村留学センター（以下、「センター」）のあり方についても問われているところです。事業開始から20年。その間に様々な社会の変化があり、またこれからも変わり続けていく社会にどう対応していくのか考えなければならない時が来ています。センターを卒園し、一旦は地元に戻るも三瓶に1ターン（Uターン？）し、現在は三児の母として三瓶で暮らしている修園生が、今後のセンターのことについて、積極的にOB・OGや地域の方々などに呼びかけ、精力的に動いてくれています。その一環で、先日、OB・OGやその保護者の方々とweb会議サービスZOOMで意見交換を行いました。久しぶりの顔が見られて嬉しかったと同時に、小中学生だった子が大人になり、社会で様々なことを学び、それらを活かしてセンターのために知恵を振り絞ろうとしてくれる様に、とても心強さを感じました。

学校のこともセンターのこともまだどうなるか分かりませんが、三瓶地域の方々や三瓶を応援してくれる方々と一緒に、良い方向を考えていきたいと思います。

稲井 祐介

活動カレンダー

6月	8日（土）	PTA 通学路清掃 畑作業
	9日（日）	ジャム作り&かたら餅作り
	15日（土）～16日（日）	裏山キャンプ
	23日（日）	1学期誕生日会

ジャム作り&かたら餅作り 6/9 (日) 雨

この日は、北三瓶の自然に触れるためと、山村留学センターを知ってもらうために、市内の小中学生を対象に募集をかけ、数人の親子が参加してくださり一緒に活動することが出来ました。

活動は木の实ジャム作りと、この辺りの地域で作られるかたら餅作りです。本来なら、この時期に出来ているキイチゴやノイチゴ、桑の実などの木の实を採ってジャムを作るつもりでしたが、今年は天候の関係か、ほとんど木の实がないうえに、天気も悪く外に出ることが出来なかったため、過去に収穫しておいた梅、ブルーベリー、イチゴを使ってジャム作りをしました。ジャム作りと並行してパンケーキ作りもして、出来たジャムをつけて食べました。どのジャムも美味しく出来ました。

午後は、地域の方を講師に招き、かたら餅作りをしました。かたら餅とは、柏餅の葉が柏の木の葉ではなく、“かたら”というサルトリイバラの葉で包んだお餅のことです。材料は米粉と餡子、かたらの葉だけです。かたら（サルトリイバラ）の葉はセンター周辺にあるので、みんなで採りに行きました。生地に入れる水加減が大事で、入れすぎて生地が緩くなりすぎてなかなか上手に丸められないグループもありましたが、なんとかみんな無事完成しました。蒸しあがったばかりのかたら餅はとても美味しく、みんなの笑顔がこぼれていました。学園生だけではない活動でしたが、良い交流が出来ました。



裏山キャンプ 6/15 (土) ~ 16 (日) 晴

キャンプ活動2回目の今回は、センター裏山で夕食と朝食作りそしてテント泊の1泊2日の宿泊キャンプをしました。継続生でスキルアップをしたい子はソロでの自炊にもチャレンジしました。

午前中に、キャンプのミーティングをして、必要な荷物を自分たちで準備して裏山へと出発しました。

裏山につくと、まずはテントの場所を決めてテントを張り、その後は、それぞれ自炊する場所を決め、夕食の準備に取り掛かりました。皆、前回の反省を活かしながら、薪をたくさん集めたり、かまど作りも前回よりも工夫したりする姿が見られました。作る料理はそれぞれ個性あふれるメニューで、作り方や味付けなどを指導員にアドバイスをもらったり、料理本からメモしてきていたり、これまでの経験からこちらが思いもよらないような料理にチャレンジしている子もいました。それぞれ、出来る時間に多少差があったものの、どのグループも美味しいご飯が出来て食べることができました。

皆の食事が終わり暗くなったころ、みんなで指導者のかまどに集まり、お楽しみの夜食の時間です。焼きマッシュマロに紅茶を飲みながらみんなで火を囲み静かな時間を過ごしました。その後は、みんなそれぞれのテントに入って就寝しました。



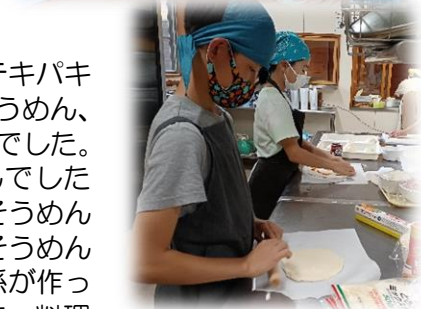
翌日は、6時に起床し点呼をした後、それぞれ朝食準備に取り掛かりました。前日の日は残さないことになっていたのも、また一から火起こしをします。順調に行く子もいれば、なかなか火がつかない子もいましたが、学園生同士でアドバイスする姿などもあり、何とか諦めずに食事を作ることが出来ました。朝食が終わった人から、片付けに入りセンターへ戻りました。片付けは、次の活動のためにも大事なことです。指導員から厳しいチェックをもらいながらもしっかり片づけをしました。

誕生日会 6/23（日） 雨

センターでは、学期毎に誕生日会をします。企画の段階から子ども達が主体となり進め、料理、会場、出し物の3つのグループに分かれて作業をします。1週間ほど前からそれぞれのグループで話し合いをしたり、準備を進めていました。料理係は、1学期の誕生日の子たちにどんなご飯が食べたいか聞いてメニューを決めたり、会場係は、折り紙や画用紙などを使って飾りを作ったり、出し物グループはみんな

でどんなゲームで遊ぶか考えたりしました。

当日は、みんなそれぞれの仕事を分担してテキパキ作業を進めました。メニューは、ピザ、流しそうめん、野菜スティック、抹茶ソーダ、フルーツパフェでした。雨と強風のため、流しそうめんはできませんでしたが、会場係が取ってきて作った竹を器にしてそうめんを盛り、流れはしませんでした。少し流しそうめん気分を味わえました。準備が出来ると、会場係が作ってくれたくす玉を割って誕生日会の始まりです。料理係が作ったご飯をみんなで美味しく食べて、その後は、1学期に誕生日を迎える人に、一人ひとりがメッセージを贈りました。照れながら、ゆっくり考えながらも、それぞれが大事に言葉を伝えました。それが終わると、出し物係によるゲームの始まりです。雨で予定していた水遊びはできませんでしたが、その分たくさん時間を取ってリアル人狼という創作ゲームを楽しみました。準備から片づけまで、みんなで作った誕生日会は、みんなの笑顔がたくさん見られた素敵な誕生日会でした。



ちょこっとトピック

6/8にPTA 通学路清掃がありました。地域の方が集まり、学園生の通学路の草刈りをしてくださいました。



大雨と風で中止になってしまった漁業体験。事前レクチャーがあり、元漁師の武下さんがセンターへ来てくれて、漁業のお話をしてくれました。当日できなくて残念でした。



センターの畑も順調に育っています。空いている時間には畑作業をしています。本支柱を立てたり草取りをしたりしました。朝も畑当番の仕事が始まり、10分程草取りをしています。収穫が出来るようになってきたものあり、学園生の食卓へ採れたての野菜料理が並びます。My畑で採った野菜は自分で調理する子も。

西村崇司のつぶやき

＼池のほとりで／

センターには昼4畳ほどの人工池があります。雨水頼りのため、どうしてもよどみがちとなりますがやはり水のあるところには生き物がたくさん集まります。生き物好きのため毎日のぞいています。今回はある生き物の生き死にをとおして学んだことを紹介します。

去る5月14日の朝、池のほとりの縁石の壁面に羽化したギンヤンマがとまっていて、その傍らの水辺にヤゴ（幼虫）の抜け殻が残っていることを発見しました。子どものとき以来、羽化したばかりのトンボを見るのがなかったので興奮し写真も撮りました。カメラを近づけても逃げようとしなかったことや翅（はね）が開いていなくて閉じていることに違和感を持ちつつ仕事に入りました。どうしても気になるのでお昼休みに見に行ってみると朝と同じ状態でじっとしていたので悪いことが起きていると思い、つぶさに見ると翅にミドリ色の繊維状のものがひっついて翅が開かず、抜け殻も同じミドリ色のものが絡まっていた。外気温が上がり太陽光が強く照ってくると池の水はミドリ色になり、おそらく、アオコのようなものだと思いますがこれがひっついたことが原因だと確信しました。くだんのトンボはかわいそうに翅が開かないのです。昆虫好きな人ならわかりますが、幼虫や羽化したての昆虫の胴体や翅には触ってはいけません。変形するからです。その禁を破り触ってみると、胴体は固くなっているのでもつまみました。翅は羽化したてのように柔らかなままだったのでためらったものの、細い針金を持ってきて水をつけひっついてたミドリ色のものを取り除き翅は開きました。これで乾けば固い翅となるだろうと思いましたが、結果的には固くならずやわらかいままでした。以下はその後のてん末のメモです。15日の昼休み、石から落ちているが生きているので家に持って帰ることとし、帰宅後、胴体を持ち、口を観察すると口が開かないことにがく然。経験値で、元気のよいトンボは胴体をつかむと、頭はフリフリ、足はバタバタさせ口は大きく開きモグモグすることを知っているので尋常ではない状態だと確信。せめて、口元に水でも思っていたけれどそれも叶わない。それでも、枝をおくと直立の姿勢でつかまるので本能は壊れていないだろう。17日まで出勤時に持っていく退勤時に持って帰る。時々、翅をバタバタさせるがやわらかいままで少しづつ根元付近から折れはじめてきたのでやるせなさが募る。18、19日の休日は自宅のみ。枝にしがみつく力が衰え、枝から落ちるも翅をはばたかせながら枝に登ろうとする。翌20日朝、一緒に出勤、胴体をつかむととても強い心臓の鼓動を感じる。昼休み、死んでいることを確認。飲まず？食わずでまる7日間生きられることを初めて知った。

この間、池の水面に死んだギンヤンマを3匹見つけたので水の浄化を始めた。何日かして透明度は上がり、相関があるのかわからないですがモリアオガエルの抱卵がとて多くなり、いろいろなカエルがたくさん集まってきました。ほぼ半世紀前の本で知ったことですが、サリドマイド薬害で腕が短くなった子どもが「腕を短くする薬があるのなら長くする薬があっても良いのに」と言ったことを思い出しました。人為と自然を同じ俎上に載せることはできませんが、失敗から学ぶことは多いと感じています。

「くにびき通信」2024年6月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センター
公式ホームページ



バックナンバー

〒694-0002 鳥根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp